

# からの手紙 小林鷹之



## 超円高について

為替介入を継続する覚悟をマーケットに毅然と示すべき。

円高にも耐えうる産業政策を。

Made in Japanのブランドを守り抜けるか否か。

糸を力に。2011年 Vol.4 [討議資料]  
自由民主党  
千葉県第二選挙区支部 小林鷹之事務所発行  
(八千代市・習志野市・花見川区)



## 編集後記

円相場が一時、対ドルで75円台に突入し、戦後最高値を更新しました。まさに超円高ですね。「円高の何が悪いの?」そんな質問を意外に多くいただきます。確かに、今、海外旅行に行けば、宿泊代も、食事代も、買い物代も、とても安くなりますよね。それと、小林もよく言うのですが、海外の天然資源や企業を買収するチャンスもありますよね。でも、やっぱり今回の円高は良くないんです。確かにモノを外国から買う時には、円高は大変ありがたいですが、モノを外国に売る時には買い手にとってはその分高くなりますよね。だから、円高は輸出のマイナス要因です。人口が減少し、今のままでは国内需要に大きな期待ができない中で、経済成長を実現するには、ある程度輸出に頼らざるを得ません。因みに、2010年の日本の輸出額は約67兆円。新しい総理が誕生したことですし、日本がモノをもっともっと海外に売れるような環境をつくっていかなければなりません。(スタッフ)

### 鷹之ブログ [ameblo.jp/kobahawk](http://ameblo.jp/kobahawk)

日々のニュースを、わかりやすく解説しながら自身の意見を述べているブログです。ぜひお読み下さい。

### twitter [twitter.com/kobahawk](https://twitter.com/kobahawk)

1歳の娘のことから天気のこと食べ物のこと、気になったことをほぼ毎日つぶやいています。

### ホームページ [www.kobayashi-takayuki.jp](http://www.kobayashi-takayuki.jp)

小林鷹之についてもっと知りたい、ボランティアに応募したい方、献金案内はどちらから。

### 小林鷹之事務所からのお知らせ

小林鷹之事務所では

- ・ボランティアをしていただける方
- ・ポスター掲示場所をご提供して下さる方
- ・ミニ集会を開催して下さる方(小林本人が伺います!)

からの御連絡をお待ちしております。

お電話またはメールにてお気軽にお問い合わせ下さい。

右下のQRコードをご利用いただいて、小林鷹之事務所からもご連絡いただけます。

TEL:047-409-5842 FAX:047-409-5843

Email: [info@kobayashi-takayuki.jp](mailto:info@kobayashi-takayuki.jp)

自由民主党千葉県第二選挙区支部小林鷹之事務所

〒276-0042

千葉県八千代市ゆりのき台3-3-5

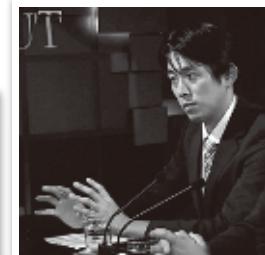
アットホームセンター第2ビル 202号室



## 活動報告



▲地元のお祭りにて  
焼そばのお手伝いをしたり、神輿  
を担がせていただきました。あり  
がとうございました。



▲BS11Inside Outという  
TV番組に出演させてい  
ただきました。



▲甲子園に出場した習志野高校を  
応援しに行きました。習志野高  
校は、ベスト8に入りました。  
感動をありがとうございました。

►地元税理士の方々と勉強会を開  
催いたしました。



## 小林鷹之プロフィール

東京大学法学部卒業。平成11年大蔵省(現財務省)入省後、財政運営から国際金融に至るまで幅広い分野の政策立案を担当。在米日本大使館に出向した際、急速に変化していく国際社会の中で、日本が為す術もなく取り残されていく姿に危機感を抱き、2010年春財務省を退職。公募を経て自由民主党千葉二区支部長就任。現在36歳。

## 超円高について

ようやく菅内閣が総辞職。

野田内閣が発足しました。民主党代表選は、たつたの3日間で、目立った政策論争もなく、国民にとつてはどうでもいい内輪の論理が結果を左右しました。まるで昔の自民党を見ているようで非常に残念でした。新総理には、私益や党益ではなく、国益というただ一点を基準に物事を判断し、行動して頂きたい。党内融和を重視するあまり、既に破綻しているマニフェストを存続させ、国益を損ねることは絶対に許されません。

さて、今回のテーマは「円高」です。

今、日本企業が生産拠点を海外へ移転する動きが加速しています。

電力料金引き上げ懸念、高い法人税率などと共に、「超円高」もその要因の一つ。

歐米の経済・財政状況の悪化により、ユーロやドルに対する信認が揺らぎ、安全資産とされる円に資金が流入していることがその背景です。が、海外移転の傾向は何も大企業に限った話ではありません。地元中小企業の経営者の方々からも、「もう限界だ。これ以上円高が続けば倒産する。海外移転を真剣に考えている。悲痛な叫びを頻繁に耳にします。中にはこう語る経営者も。「中国の自治体から工場誘致の打診があった。現地に行くと、広大な敷地を信じられない価格で提供してくれるとのこと。とても魅力的だ。」我が国の技術に他国が食指を伸ばす中で、政治や行

政からは危機感が感じられません。

雇用不安が募る中で、企業が「やむを得ず」海外に生産拠点を移せば、産業の空洞化が生じ、更なる雇用機会の減少を招きます。そうなると賃金は下がり、モノは売れず、デフレが更に深刻化する。経済が成長しなければ、財政、社会保障が立ち行かなくなるのは時間の問題です。

一方、隣の韓国はどうか。

今や自動車、電子機器といった分野で日本の最大のライバル。韓国の通貨はウォン。

リーマンショック以降、超円高ドル安が進む傍ら、何とウォン安ドル高！日本と逆なんですね。韓国政府による為替介入がその一因と言われています。これに加え、FTAを精力的に推進していることもあります。我が国と異なることもあり、日本との価格競争において相当優位な立場にあります。我が国と異なり、明確な国家戦略がある。その結果、日本企業は苦しい立場に置かれています。

財務省で国際金融に携わった経験に照らすと、円高を前提とした産業政策を積極的に講じていく必要があります。また、それだけではなく円高そのものを阻止する強い覚悟をマーケットに示していくことも必要です。私のスタンスは次の通りです。

1 円高基調を反転させるまで為替介入を継続する覚悟をマーケットに毅然と示すべきです。欧米の現状を踏まえれば日米欧の協調介入は容易ではありませんが、いざとなつたら刀を抜けるよう緊密なコミュニケーションを続けています。

シヨンを続けておく必要があります。

2 金融緩和を大胆に実施すべきです。8月に日銀が発表した資産買入れ基金の積み増し（40兆円→50兆円）もマーケットの想定の範囲内でサプライズはありませんでした。市場の予想を良い意味で裏切るために「倍増」するくらいの大膽さが求められています。

3 中長期的には、現状のような欧米の状況に売買が大きく左右される「消極的選択肢としての通貨」から脱却していくために、円の国際化を進めていくことも必要です。海外マーケットのシェアを奪うために積極的に海外進出するケースを除けば、「できるなら、今の場所でモノを作り続けて、従業員の雇用と技術を守りたい」

これが経営者の方々の真摯な思いです。この思いに政治が応えなくてどうするのか。現下の超円高を「国家的危機」として位置付けた上で、法人税率の大幅な引き下げの他、国内設備投資への補助金の活用や、資金繰りが悪化した中小企業への長期資金の提供など、政策を総動員して、少なくとも他国と対等な条件で企業が勝負できる環境を政治が整え、産業の空洞化に歯止めをかける必要性を強く感じています。Made in Japanのブランドを守り抜けるか否か。政治の真価が問われています。

平成二十三年九月初旬  
自民党千葉県第二選挙区支部長

小林鷹之

メールマガジンvol.4より抜粋